

# たたら世界遺産 登録の取り組みは

内田精彦 議員

**町長** 皆さんの御協力、御理解が  
不可欠であり、町民全員で取り組む



**問** 農林漁業体験実習施設については3月議会に提案され指定管理に同意したが、現在休館中であると言ふ事なのか。

**答** 森長地域振興課長  
4月の中旬頃から営業開始を予定していたが、従業員の確保が困難、さらに宿泊施設であるロッジの空調施設すべての機器の取り替える必要が生じてロッジの利用が出来なくなり営業開始がさらに遅れました。

この間バスツアーなどのエージェント契約の対応はして頂きました。

**問** 各公民館、コミュニティセンター、婦人の家等の調理実習室を比べると格段の差があるが状況を把握しているのか。

**答** 川本生涯学習課長  
昭和54年以降に建設された各施設については一部設備的に使用しにくいところもあり逐次厨房調理器具等の整備を図りながら利用いただいている。代替施設のない布勢公民館は建設から39年余経過しており他の施設に比べ設備機器、調理器具等の老朽化は否めない状況であると認識している。

**問** 古い設備の改修を早急に行なう考えは、改修計画があれば聞きたい。

**答** 川本生涯学習課長  
支障を来している個所については改善を進め調理器具等計画的な更新を図る考え、また老朽化が激しい布勢公民館と阿井公民館における調理実習室については施設全体の改築に合わせ検討したい。

横田の婦人の家の蛇口については湯の出る個所が1ヶ所しかなく不便を

かけております。構造上の問題もあり早急に専門家と協議し、利用しやすい設備改善を図ります。

**問** たたら吹き製鉄体験事業はどのような内容で行なったのか。

**答** 川本生涯学習課長  
今回のたたら体験事業は広く一般の方々にたたら製鉄とはどんなものなのかを実体験いただく、また見学の機会を提供しようとして実施しました。

**問** アンケートの感想、要望をどのように活かしていくのか。この体験事業で得られた効果はどのようなものなのか。

**答** 安部教育長  
観光振興、地域活性化に寄与することが再認識された。今後たたら製鉄愛護団体の結成など官民一体となって体験事業を实地し観光振興、地域活性化に生かしたい。たたらを町づくりに活用するため調査研究、各種団体と力を合わせ進めたい。

150名を超える参加者、半数以上の方が、たたら製鉄愛護団体に参加した

い、興味関心が全国的であると確認できた。

今回の事業により、たたら町の町奥出雲町を全国に情報発信でき、たたら製鉄愛護団体の結成に向けての素地ができるなど、目標としていた効果と成果があつたと考えている。

**問** 世界遺産登録には、数多くの課題、問題等があるとありますが、それらをクリアしなければなりません。まず奥出雲町民がたたらを理解し得ることが不可欠重要であります。町長はどう考えているのか。

**答** 奥出雲町民全員がたたらを理解し、それぞれの立場で神話とたたら町の、我がふるさとの情報発信をしていただく事が極めて重要と考えている。みんなでこの地域の古代からの鉄穴流し、たたら製鉄の歴史を確認しながら、町民挙げて、世界遺産登録を目標に町民の皆さんの意見、提案をいただき町民全員で取り組んで行きたいと考えている。